

大学発イノベーション分科会セッション

◆ 研究データの有償提供と流通 ◆

【講演者】

小林 和人氏 (東京工業大学 知的財産部門 部門長補佐)

「大学における研究データ有償提供の取組み」

上島 邦彦氏 (株式会社日本データ取引所 事業企画部 部長)

「データ流通市場から見た研究データの特徴と期待」

【概要】

データ利活用の専門家2名による話題提供のあと、研究データの有償提供および流通のあり方を考える。研究データ・マネジメントの最前線である大学の事例、提供後のステップであるデータ流通を理解することは、大学関係者にかぎらずあらゆる実務者にとって有用であろう。

AI 技術の社会実装の急速な進展はあらゆる業界に対して大きな影響を与えた。ビッグデータから得られた解析情報を経営資源としたグローバル企業の台頭を契機に、AI 技術は医療、福祉、行政などあらゆる分野で活用されている。驚異的なスピードの技術革新の主な担い手は大学やベンチャー企業であり、大企業によるベンチャー企業への積極的な投資や、大学との大型共同研究プロジェクトの増加がその証左である。

「改正個人情報保護法」、「官民データ活用推進基本法」、経済産業省「受託研究開発におけるデータマネジメントに関する運用ガイドライン」などデータに関する各種制度整備が進み、企業や大学のデータ・マネジメント体制も整備されつつある。

一方、大学等で扱われている研究データについては産学官それぞれの垣根を超えて利活用されているとは言い難い。研究成果物としてのデータは、その生成状況や内容の多様性から、帰属や価値評価を画一的に決めることができず、こうした特殊性がデータの広範な利活用を阻害していると考えられる。令和3年3月に公表された「第6期科学技術・イノベーション基本計画」が「自由な研究と多様性を尊重しつつオープン・アンド・クローズ戦略を実現する研究データの管理・利活用のための環境整備」の必要性を指摘するなど研究データの社会での利活用を実現することは喫緊の課題である。

以 上